

ロシアミッション学生交流事業に参加して

国際教養学科 **水田桃華**

ロシアミッションは日本国内でロシア人学生をもてなす招聘事業と日本人学生がロシアへ行く派遣事業の2つに分かれています。文化体験や現地学生との交流を通して、互いの国を深く知ることができるのがこのプログラムの特徴です。領事館や大使館を訪ねる機会もあり、日露間の政治・経済・歴史などを学んだうえで両国の協力目標などについて議論を交わしました。

ロシア滞在中はホームステイを経験し、生活や文化を学べただけでなく「笑わない国」「サービス精神がない国」といった先入観が消えました。大量の手料理での歓迎から始まり、観光名所を夜通し案内してくれるなど、おもてなしの精神は日本と通ずるものを感じました。また、私たちが普段するような他愛もない話で盛り上がる様子を見て、自分がいかにロシアに対し偏見を持っていたか気付きました。

このプログラムを通し再確認したのは、民間外交の大切さです。インターネットや噂ではなく、自分で確かめることが他国の魅力を感じる第一歩だということを忘れず友好的な関係を築いていきたいです。



日中文化交流協会大学生訪中団に参加して

中国語学科 **岡田 真綾**

中国人学生との交流を通して「中国から見た日本」と「日本から見た中国」について意見交換できるのではないかと考え、このプログラムへの参加を決めました。

1週間の訪中で、北京、蘭州、敦煌の3都市を訪問し、都市によって街並みの雰囲気や中国語の発音が違うなど、それぞれの特徴を理解することができました。北京では故宮博物院でコップへの絵付け体験をしました。陶器の絵に実際に使われている伝統的な絵柄を用いての絵付け体験だったので、歴史を学びながらマイコップを作ることができました。蘭州大学の学生との交流では、日中の文化の違いや共通点について話をしました。彼らは私の拙い中国語をゆっくり聞いてくれ、中国人の優しさを感じました。お互いの言語を使って会話をするのはとても楽しく、有意義な時間を過ごすことができました。このプログラムを通して知り合った中国人学生とは、今でも連絡を取り合っています。敦煌ではシルクロードの関所として使われていた陽関を訪問しました。かつては国際市場（バザール）があり、人と物で賑わっていたことや、オアシスが近くにあることで水の確保の面から関所の奪い合いがあった歴史など、実際に自分の目で現場を見たからこそ想像することができたと思います。

今回の訪中で中国の文化や歴史の奥深さをより一層感じ、もっと中国について学びたいと改めて思いました。このプログラムを経験した今、日中の違い、共通点を理解することが日中間のより良い関係を築くための第一歩になると考えます。そのためにはより多くの民間交流の機会が必要だと思いました。

